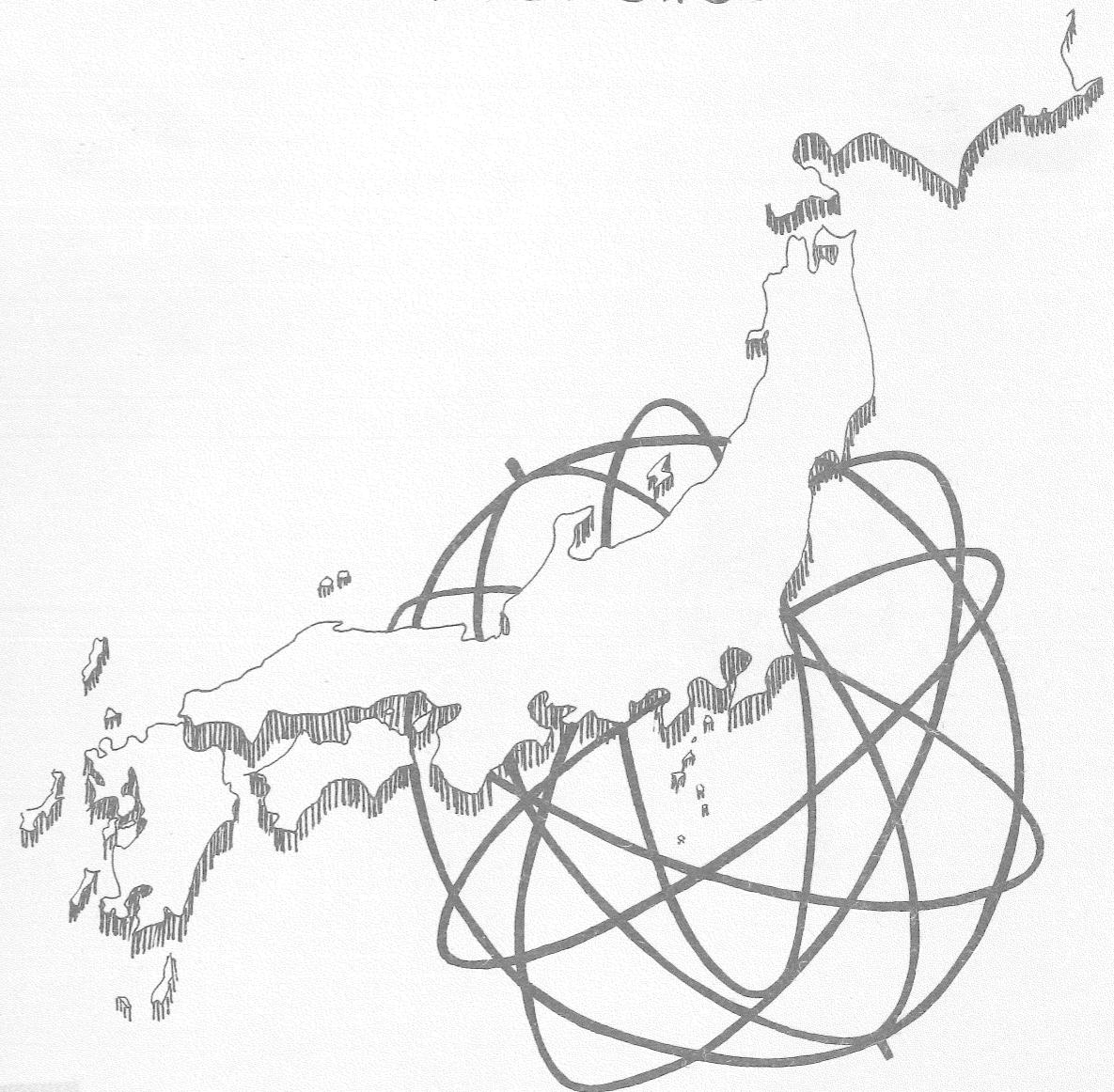


伊能忠敬測地遺功表再建記念

1965年 5月8日



碑文（田山方南氏書）

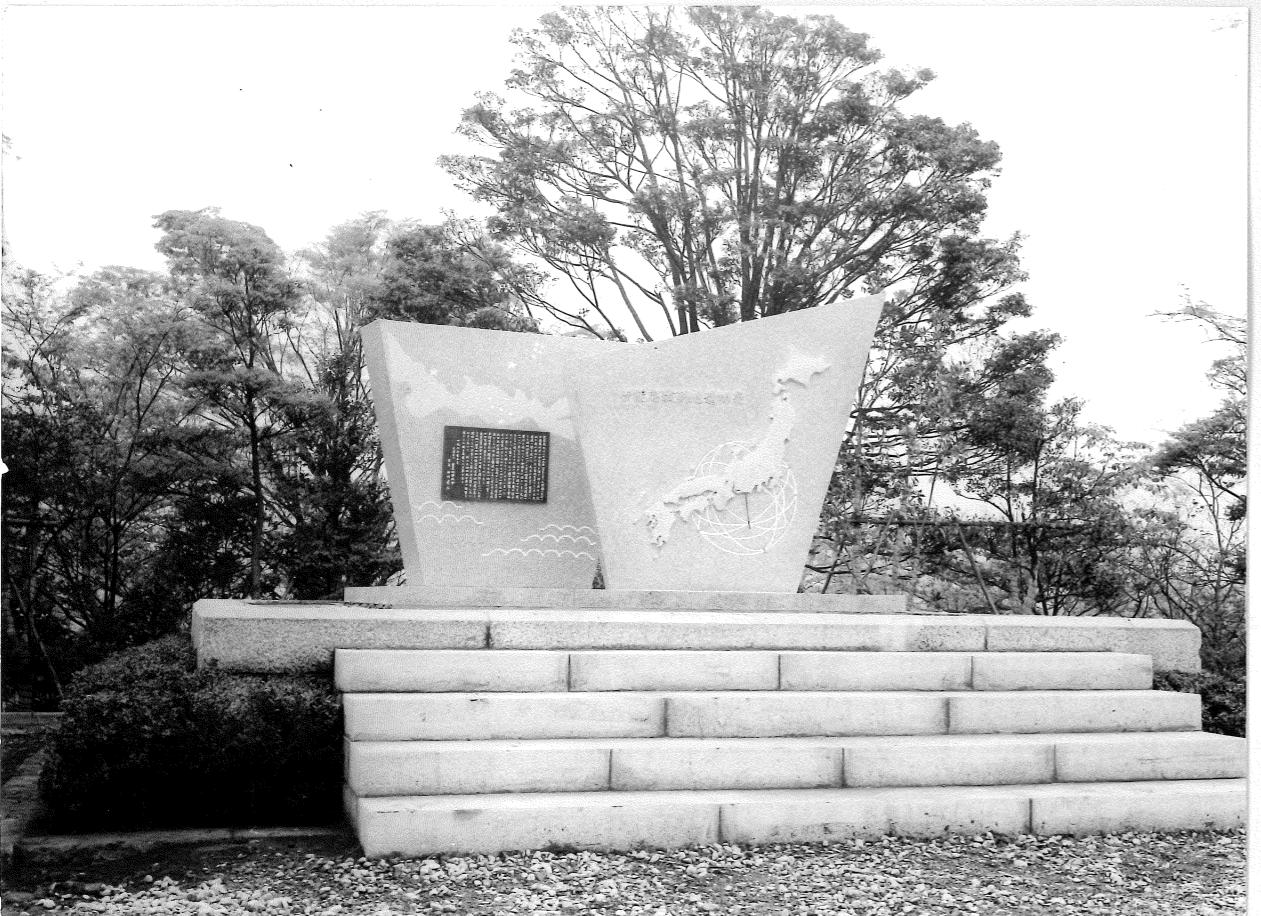
忠敬先生は一七四五五年（延享二年）上総国に生れて下総国佐原の伊能家を嗣ぎ、村を治めて後五十歳の時江戸に出で、高橋至時のものと天文暦数の学を究めた。先生の卓見と創意による測地測量は一八〇〇年の蝦夷地、奥州街道の実測を始めとして全国津々浦々にまで及び一八一八年（文政元年）江戸八丁堀で七十四歳をもつて歿するまで、不屈の精神と不斷の努力とによって続けられ、わが国の全輪郭と骨格とが茲に初めて明らかにされるに至つた。

その偉業は引きつがれて一八二一年大中小の大日本沿海輿地全図が完成せられ、その精度の高きことは世界を驚嘆せしめた程であり、参謀本部測量局の輯成二十万分一地図は実にこの伊能図を骨子としたものである。

東京地学協会はその功績を顕彰して一八八九年この地に贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表を建設したが、不幸にして第二次大戦中に失われるに至つた。仍つて今回各方面の協賛を得てこの碑を再建した次第である。

一九六五年五月

社団法人 東京地学協会
会長 細川護立



(左頁上部写真)
伊能忠敬測地遺功表
(再建されたもの)

旧贈正四位伊能忠敬先生測地
遺功表の台の上に再建
(円錐勝三氏設計)

(左頁左下部図版)
伊能忠敬の使用した
逆目小方位盤(測量用コンパス)

(左頁右下部図版)
元贈正四位伊能忠敬先生
測地遺功表(辰野金吾氏設計)
東京芝公園一号地円山
1889年12月14日完成
銅製、高さ約7.3m

(右頁写真)
伊能図(中図縮尺 $1/216,000$)の一部
元大河内子爵家に所蔵され、現在
東京国立博物館所蔵の「輿地実測
図」による原図の約 $\frac{1}{3}$ に縮写

(東京国立博物館撮影)
(東京国立博物館の好意による。無断
複写・転載が禁じられています。)

